



From
the People of Japan



マリにおける日本とUNDPの協力

協力分野



若者とレジリエンス

マリ政府による若者向けの雇用創出や、トンプクトゥ、ガオ、モプティの各州とバマコ特別区(コミューンIIIおよびVI)で生じた危機により破壊された社会教育インフラの復旧を支援すること



バマコ国立警察学校(ENP)の訓練能力強化

既存インフラの改修と整備を通じ、国立警察学校の機能と効率を高めるとともに、適切な生活・学習環境で国際的な規範と標準に沿った訓練を通じ、警察官の能力を強化すること



平和と安定

国土全体で治安を回復し、治安当局が新たな脅威に対処する能力を強化し、安定と平和を取り戻すことを目的に、ガバナンス能力を改善すること

主な成果

若者とレジリエンス



スフルライ(モプティ州)のユースキャンプでは、6区画の寄宿舎改修により、ベッドやマット、蚊帳が設置されたほか、訓練生の収容能力も約100人から200人に増強されました。また事務所1棟に情報機材(コンピュータ、印刷機、コピー機)も整備されました。



マリ国内の各州から集まった女性20人を含む若者60人が、洋裁や電気設備、自動車整備の訓練を受け、個人用ツールキットも支給されています。



洋裁、金属加工、大工、電気設備、自動車・オートバイ整備に用いられる作業場5か所の改修と整備が行われました。

平和と安定



建設:アリヌ・ブロンダン・ベイエ平和維持学校(EMP-ABB)のインフラが整備されました。



EMP-ABBの後方支援能力が強化されました(4輪駆動車4台、小型車1台の車両計5台、治安維持用機材1,000台、机と椅子800組、ベッドとマット800組、各種機器5,000台(コンピュータ用品、事務用品、家電製品、台所用品など)、医療機器7,092台、救急車1台を含む車両7台)。



EMP-ABBのセキュリティ強化:22台の監視カメラが設置されました。



国防・治安・文民要員267人を含む2,000人以上が、管理と平和維持のさまざまな分野(治安セクター改革、武装解除・動員解除・社会復帰、国際人道法、ジェンダー、リスク管理と防災など)で訓練を受けています。

ENPの訓練能力強化



女性185人を含む1,296人の警察官、警備員、税関職員、水・森林資源監視員が国連マリ多面的統合安定化ミッション(MINUSMA)の国連警察(UNPOL)部門との協力により、24のテーマに関する訓練を受けたほか、車両6台と、治安維持用機材も供与されました。



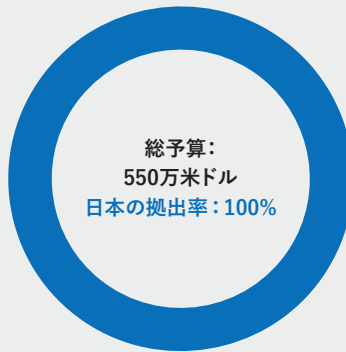
54棟(教室、保健室、事務所、寮、射撃場)の建設、改修および整備(機材7,000台以上)と、学校敷地の事務区画、教育区画、社会区画への配分改善により国立警察学校の訓練能力が強化されたほか、近代的インフラの整備により、収容能力も240人から1,080人へと、450%の増加を遂げました。

日本による資金拠出

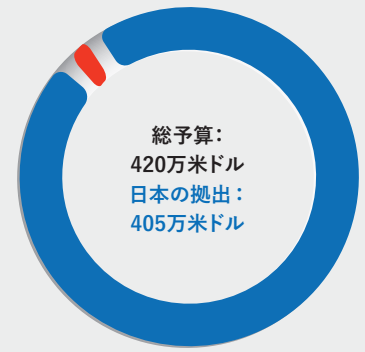
若者とレジリエンス



平和と安定



ENPの訓練能力強化



国立警察学校の訓練生

「これまで、私たちは時々、訓練場所の移動を余儀なくされてきましたが、改修によって、国立警察学校の収容能力は3倍に伸びました。

治安上の課題は現実のものとして存在するため、実施される訓練は、治安部隊の介入能力の強化に貢献するものでなくてはなりません。

人権に関するものをはじめ、新たに導入されたモジュールにより、一定の問題に新たなアプローチから取り組むことも可能になっています」

— マミ・シツラ

警察本部訓練局長、元国立警察学校校長